

まな Viva!



「京都丹波 まな Viva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

世界で注目! ひにんち のうりよく 非認知能力とは? (社会情動的スキル)

京都府教委の重点戦略
にもあげられて
います!

例えば・・・



感情のコントロール力



目標に向かって
粘り強く頑張る力



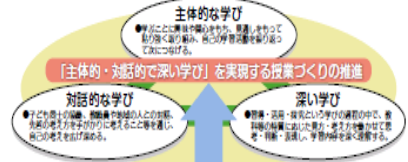
人とうまく関わる力

平成31年度重点戦略

一体的にはくむ教育の展開

コミュニケーション能力が自覚心、社会性など「**非認知能力**」で表すことが期待される力 (非認知能力) 知識の習得や技能の修練など学力テスト・検査等により「**認知能力**」で表すことが期待される力 (認知能力)

【知識・技能】「**非認知能力**・判断力・表現力等」【**学びに向かう力・人間性等**】をバランスよく育成



生徒指導の機能
●児童生徒一人一人が自ら学びや活動を楽しむことができるよう指導の機能を果たす。
●児童生徒の学びや活動の過程で、必要に応じて適切な指導を行う。

基礎・基本の定着
●基礎的学力(教科書21の中核学力)・基礎的知識(基礎)を確かなる。
●基礎的学力(教科書21の中核学力)・基礎的知識(基礎)を確かなる。
●基礎的学力(教科書21の中核学力)・基礎的知識(基礎)を確かなる。

非認知能力（社会情動的スキル）とは、認知能力（テストなどで数字で測れる力）の土台となる大事な部分で、4歳頃からぐんぐん伸びはじめ幼児期に大きく育まれます。大人になってから身につけるのは難しい脳の働きであり、生理的メカニズムと言われています。

問題に直面した時に、すぐに諦めてしまうか、粘り強く頑張るか、という違いは、将来において大きな差を生むことになります。

物事に粘り強く取り組むためのポイント



① まずは、それが「やりたいこと」であること

子どもは自分のやりたいことに夢中になって取り組みます。逆に言えば、子どもは、興味のないことに取り組もうとしません。自分のしたい遊びを、夢中になって「遊び込む」経験は、とても大切なことといえます。いかに子どもにやりたいと思わせるか、興味をもたせるかが鍵となります。

② 自分の気持ちを調整することができるということ

例えば、何度やってもうまくいかない「こま回し」を成功させたいというような時、子どもは「もうちょっとだけやってみよう。」「あとちょっと頑張ろう。」と自分を励ましています。この気持ちを支えてくれるのが、友達の応援や先生の見守りです。

将来、社会に出たときに、経験のないことや自信がもてないことに、大人たちが向かっていけるのは「頑張ってきた」という子どもの頃の経験や家族や友達の励ましなどが積み重なって「非認知能力」を獲得してきた結果なのです。

非認知能力 = 生きる力

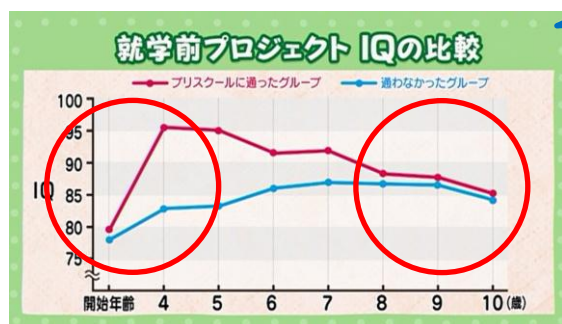
非認知能力が注目される理由

2000年にノーベル経済学賞を受賞したヘックマンの研究
 「ペリー就学前プロジェクト」…アメリカのミシガン州で行われている
 1960年代から現在まで続く調査



経済的に余裕がなく幼児教育を受けることのできない貧困世帯の3~4歳の子ども達123人の約半数に週3回、1日3時間のプリスクールに2年間通ってもらい、さらに週1度教師による家庭訪問を行いました。
 プリスクールに通ったグループは、通わなかったグループに比べて、その後の人生において、**収入が多い、持ち家率が高い、学歴が高い**等の差が見られました。

この結果の理由を「教育を受けてIQが伸びたからではないか?」と考えてしまうかもしれません。IQを調べてみると・・・



プリスクールに通っている間は、急激に伸びていますが、9歳ごろになるとIQの差はほとんどなくなります。

ヘックマンは、大人になってもより幸せでいられるのは、プリスクールに通って認知的な能力を伸ばしたからではなく、**非認知能力を身につけたことが大きな要因ではないか**と考えました。

※プリスクール…就学前の教育施設

非認知能力を伸ばすためのポイント



● 子どもの主体性を引き出す

子どもの主体性を引き出すためには**環境構成や仕かけ、投げかけが重要!!**
 「やってみよう!」「もっとこうしたい!」「もう一度挑戦してみよう!」そんな気持ちが持続するように、**子どもの主体性の上に計画性**をもち、**計画性の中で子どもの主体性を見だし**、子どもの学習や活動の発展を考えていきましょう。

子どもの興味・関心は、教師の環境づくりにより意図的に高められます。粘り強さは、励ますことで伸ばせます!!

● 認知能力と非認知能力は絡み合うように伸びるという意識をもつ

非認知能力は**認知能力の土台**となりますが**意欲や関心をもって粘り強く取り組む**と、自然に深く考えたり、工夫したり想像したりして**認知能力が高まり**ます。

その結果、**達成感や充実感が得られ「次も頑張ろう!」**と**非認知能力が強化**されます。こうしたサイクルを意識することで、認知能力と非認知能力は効果的に伸ばすことができます。